

証券市場新聞

1 第147号

日経平均株価

2万3869円93銭

▲195円00銭(前日比)

TOPIX

1804.02

▲16.42(前日比)

2018
9/24
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



自動車の復活なるか!?

高い技術力と世界戦略を見直せ

9月相場では日経平均が2万3000円を抜ける過程でソフトバンクグループ(9984)やファーストリテイリング(9983)、ソニー(6758)の指数構成銘柄の上昇が目立った。その一方で、戻りの鈍さが印象的だったのが、トヨタ自動車(7203)を筆頭とする自動車セクターだ。これには米国の通商政策による影響などが不安材料にあるが、全般相場が更なる上値を目指すには、環境対応車への展開など世界的に高い技術力を見直す必要がある。

新値目指す公算大きい

域で現地生産が確立されていることやEV(電気自動車)、水素自動車といったエコカー、自動運転を含めた電子化で先行する日本の自動車産業は仮に通商政策の影響を受けても長期的な成長余地は大きく、不安材料が後退してくれば、先行して買われた主力銘柄に続いて新値を目指す公算は高いと見る。



EVなど次世代環境対応車などで日本の自動車メーカー活躍が期待される

輸出系の代表格である自動車関連の株価に関して1ドル112円80銭台まで弱含んだ為替の動きが下支えして若干戻りに転じたが、着地点が不透明な日米通商交渉が足枷になっ重値が上値が重動きになっる。世界主要地中国で2030年頃までに現地での生産を年間350万台規模まで増やすことが明らかになった。製品面でも日本市場向けのレクサス新型ESに量産車として世界初となるデジタルアウターミラーを採用することを発表しており、世界展開と新技術の実用化とも一歩先を行く展開となっている。

一方、ホンダ(7267)は長年開発を続け市販化に近づけた。ホンダは「新構造ブレイキヤリパー」を世界で初めて開発したことは記憶に新しい。貿易競争が起こったとしても高い技術と企業戦略を有していれば生き残ることは間違いない。

日経平均日足チャート





TATERUストップ高

信頼回復へ再発防止策を発表

18日、TATERU(1435)がストップ高。従業員による不適切な行為に対する再発防止策を発表したことが材

今週の動意銘柄

週明け18日、TATERU(1435)がストップ高。従業員による不適切な行為に対する再発防止策を発表したことが材

DLE第三者委設置
18日、ディー・エル・イー(3686)がストップ高。14日の取引終了後に過去の財務諸表又は連結財務諸表に会計上の懸念があることについて第三者委

ジャストシス52%増益
18日、ジャストシス(4686)がストップ高。19

そーせい臨床開発中断

19日、そーせいグループ(4565)がストップ高。HTL018318のライセンスパートナーであるAllergan社が、サルを対象にした長期毒性試験において予期しない毒性所見が見出されたため、その詳細を把握するまでの間、HTL0018318の臨床開発を自主的に中断すると発表した。HTL0018318

金融株総じて高い

19日、三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)や三井住友フィナンシャルグループ(8316)などメガバ

年3月期第1四半期の連結決算を発表、売上高67億1300万円(前年同期比26.9%増)、営業利益21億3900万円(同52.0%増)と大幅な増益となったことが好感された。元従業員の不祥事で発表が遅れていたが、相場以来の最高益となっている。

ンク株や第一生命ホールディングス(8750)をはじめとした生保株など金融株が総じて高い。前日の米10年債利回りが3.05%と約4カ月ぶりの水準に上昇、国内も0.120%と1カ月半ぶりの高水準になったことを受け、長短金利差拡大による運用利ザヤ改善を期待した買いが広がった。

ランドB6%自社株買

19日、ランドビジネス(8944)

正直いいさんの株で大判小判

21日の東京市場は6日続伸となりました。NYダウが8カ月ぶりに史上最高値を更新したことや為替が112円60銭台の円安に振れていることから買いが優勢でした。3連休を控えて来週には日米の貿易交渉が再開されることから、一旦様子見の動きを想定していましたが、前引け後から先物を買う動きが強まり、後場から指数も上げ幅を伸ばしました。こうなるか買いますか、冷静に押し目を待つとも必要かと思えます。

出遅れ銘柄や続々、新興市場安となっていた、冷静に押し目を待つと、後場からプラスに浮上し、そーせいが安寄りの後ムードを明るくしていきます。任天堂(7974)はゲームショウ通過で一旦材料出尽くしの可能性も。短期値幅取り候補ではオイラ大地(3182)が急伸し、これに続く銘柄を取り上げていく考えです。 花咲翁



がストップ高。上限165万株(発行済株式総数に占める割合6.58%)。また5億円の自己株式取得枠を設定したことが材料視された。

公開価格の2.1倍
アズームの初値20日、アズーム(3496)が東証マザーズに新規上場、公開価格3000円の2.1倍となる6400円で初値をつけた。月極駐車場紹介サービス及び月極駐車場サブリースサービスを行う。

ニイタカ
(4465)

M&A効果が表面化

19年5月期は7.6%増収見込む

油化工業が
通年寄与する
こともあり、
通期連結
売上高1
80億円
(前期比7.ノロスター
10億円へ

ニイタカ(4465)は業務用洗剤・洗浄剤、固形燃料の製造・販売を展開、旅館や外食向けの固形燃料に関しては国内シェア6割以上とトップを誇り、フードビジネス業界の頼れるパートナーとして、ユーザーから厚い信頼を得ている。

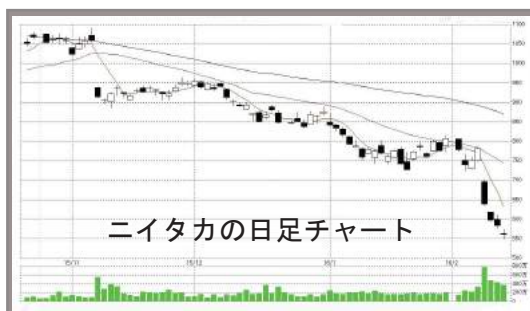
環境にやさしく、コストパフォーマンスにも優れたパウチ包装タイプの高濃度洗剤・洗浄剤のラインアップを強化するとともに、食器洗浄機メンテナンスや衛生サービスなどのサポート体制をより強化することにより、大規模ユーザーの獲得や既存顧客からの受注増に取り組んでいる。

特選銘柄

19年5月期は昨年7月に子会社化したスイショウ

6%増)、営業利益11億3000万円(同4.2%増)と増収増益を計画、固形燃料も国内の外食チェーン向けなどに加えて中国での拡販も寄与が期待される。

複数のノンエンベロープウイルスを99.999%以上除去できるウイルス対応型アルコール系除菌剤「ノロスター」をアルコール系除菌剤の旗艦製品として育成しており、2020年に10億円の販売を目指している。



プロが教える



法人向け保険ならお任せ！

節税対策にも最適

お客様のニーズに応じた最適な商品・ベストプランを提携保険プランナーを通じてご提案します。

詳しくはココ・パートナーズ(株) アドバイザリー業務部まで。

info@marketpress.jp

潮流

ついに岩盤を打ち破る！

日本株式市場は新たなステージへ

marKet / bAnk



日経平均はついに2万3000円の岩盤を打ち破った。9月19日に2万3842円と1月24日以来およそ8カ月ぶりの高値を付けた。9月7日の安値2万2172円から7日間で1670円も上昇したことになる。5月・6月・7月・8月と2万3000円が天井でその後、2万2000円まで下がるといったパターンが続き、9月も同様な動きになることを予想していた投資家が多かったに違いない。

弱気の投資家が増えていることは空売り比率が40%を超える日が連続32日間も続いていたことでも読み取れた。しかし、日本企業の好調な業績から日経平均予想EPSは1744円（9月6日時点）と過去最高となっており、予想PERが1.3倍程度と割安の水準が続いていた。過去1年間の平均PER（13.86倍）とすると日経平均は2万4100円程度となる。1月の高値（2万4129円）を超えても不思議ではなかった。そのような状況の中、ヘッジファンドが225先物を大量に買い仕掛けたことで、売り方の買戻しが一斉に入り、日経平均が一気に上昇したのである。日本の株式市場を大幅に急

騰させるのも、急落させるのもヘッジファンドである。日経平均が急上昇した日の日経225先物とTOPIX先物の手口を見るとクレディスイスとゴールドマンサックスの大口買いが目立っていた。

ヘッジファンドが日本株に買いを入れたのは米国に再びインフレ期待が高まっているからだ。米国のPCEデフレータが2%を超え、コアPCEデフレータでも2%水準と伸び率が上昇している。直近のコンファレンスボードの消費者信頼感指数も引き続き良好であり、インフレ期待も高くなってきている。また、雇用環境も引き続き良好で、実質賃金もプラスを維持し、堅調な個人消費も予想されている。つまり、ディマンド・プル・インフレが米国を中心に再び高まってきているのだ。米国の金利上昇からドル高・円安基調が続けばさらに日経平均は上昇する。また、安倍総理の総裁3選が決まった。「来年は思い切って財政出動も含めて対策をやっていききたい」と述べた。インフレ率2%の目標達成に向けて、日本株式市場は新たなステージに立った。

潮流銘柄はアイ・ピー・エス(4390)、ベйкаレント・コンサルティング(6532)、FFRI(3692)。

資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

円安続き日経平均は上昇

アイ・ピー・エスの日足チャート



チャート から読む 騰落銘柄

南海電気鉄道 (9044)



関西空港線の復旧から9月6日の2676円を底に上昇。50日移動平均線を抜けた後も押しは浅く、目先の売り一巡後は8月1日高値3180円抜けから6月15日高値3280円を目指す展開に期待。

シノケンG (8909)



TATERU改ざん問題の連想売りを浴び、短期急落となったが、12日に付けた年初来安値1005円で底値を確認。当面、半値戻しの1400円から25日移動平均近辺の1480円を目指す。

キューピー (2809)



全般上昇相場でも動き鈍く2600円前後での底這い継続。この水準を維持できなければ4月13日の年初来安値2435円が視野に。中国でのマヨネーズの減収が続く、下期からの回復が株価浮上の鍵となる。

西松屋チェーン (7545)



全般底上げのなか戻り試すも、集計中の第2四半期業績の下方修正受け反落。年初来安値を更新し、再び下値模索へ。大勢下降トレンドのなか一段安が濃厚で、4ケタキープへ正念場続く。

今週の

活躍期待銘柄



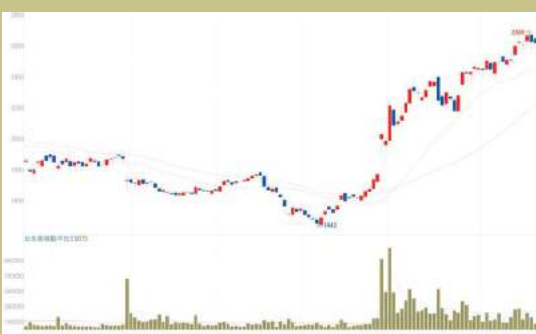
NFKHD (6494)

目先売り一巡し底値離脱へ

NFKホールディングス(6494)は8月上旬までの200円前後の揉み合いから8月17日に109円まで急落したが、目先のな売りが一巡し底値離脱が期待される。工業炉用燃焼機器が主力で、省エネを実現した蓄熱型交互燃焼装置に強みを有している。前期は一部の進行基準適用案件において原価が想定を上回る事象が発生していたが、自動車関連会社から各種アルミ熱処理設備、大手鉄鋼会社から予熱用バーナ設備など受注は回復傾向となっており、19年3月期は通期連結売上高で25億円(前期比5・5%増)、営業損益で8000万円の黒字(前期700万円の赤字)と黒字転換を見込む。事業提携先のオリンピア工業の超低NOxバ

ーナは中国都市部の厳しい環境基準をクリアしており、中国全土での展開に期待。(と)

オリンピアと提携効果表面化



ソフトバンク (4726)

3期ぶり最高益も増額含み

ソフトバンク・テクノロジ(4726)は実質最高値更新後も着実に下値を切り上げ、一段高を志向してきた。ソフトバンクグループの技術中核会社で、現在推進中の中期計画ではクラウドへの集約とIoTビジネス開発を基本戦略に成長基盤を構築、19年3月期1Qは連結営業利益4億5000万円(前年同期比5倍)と利益が急拡大した。クラウド、セキュリティ、ビッグデータの重点3事業が好調な滑り出しとなり、フロントはビジネスモデル変更で年間ライセンス購入・更新時期が平準化、低採算の特定機器販売を終了したことから限界利益率が急改善しており、通期計画の25億円(前期比14・9%増)は最低ラインみられる。3期ぶり最高益も増額含み。信用倍率0・67倍の好取組も株値を押し上げ、噴き値のタイムミ

ングに近い。(さ)

クラウドとIoTで高成長続く

※チャートは日足

警戒感もち利益確定も

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

この欄では日経平均が2万3000円を抜けて上値を目指すが、9月7日の安値2万2172円90銭から19日の2万3842円05銭まで僅か1週間半程度で1660円超上昇、予想以上の上げ幅となりました。

ただ、高値を付けた19日の動きを見る限りでは、前日に大きく上げた銘柄は高く寄り付いた後は伸び悩みとなり、組み合う展開となり引けにかけはダレる結果になり軒並み陰線で見られました。一

イベント終了後勢い増す

気のかさ上げも行き過ぎの感が強く、過度に樂觀することなく、警戒感をもって利益確定や処分売りを優先するべきと思っています。この欄を執筆している段階では日米通商交渉の動向は不明ですが、米中再協議など余談を許さないイベントが待ち受けており、これらへの懸念を理由に反落する場面もあるでしょう。しかし、予想外の結果にならない限り相場にはかなり織り込まれており、イベント終了となれば再び相場は勢いを増していくと思われま

す。したがって、調整場面があれば自動車株や機械株、商社、金融系、電機、情報・通信などの押し目を拾う作戦が有効とみています。調整局面になりますと材料系銘柄の物色が強まるものと思われま

す。一貫推奨のアンジェス(4563)も小動きに終始していましたが、ストップ高で500円台に乗せてきました。いよいよ出番ということでしょう。また、出遅れ状態が目立っています。

たアイフル(8515)や双日(2768)も動意付いていますので一段高を期待しています。一方、塩野義製薬(4507)、中外製薬(4519)など医薬品は軒並み高値を更新し大きく上げましたので、ここは一旦、利益確定を断行すべきでしょう。カネカ(4118)は1000円台に乗せ後も底堅く推移しており、押し目場面があれば狙える銘柄です。今回の狙いは、GMOインターネット(9449)、スタートゥデイ(3092)、オムロン(6645)です。ボックス

岩谷産業(8088)も追撃でよさそうです。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市場情報(これでどや!!)
<http://www.kabun-takano.com/>
毎日情報を配信中!

敏腕先物トレーダー

ハチロクの裏話

ある。一気に1月23日は年初来高値の2万4129

最後の窓を埋める

年初来高値2万4129銭が視野

先週の日程平均は壁であった2万3000円を明確に抜けてきて1週間約1000円の上昇となった。連休明けの火曜日にトランプ氏が中国の輸入製品に対し第3弾の追加関税を発表したが、当初予想の25%を和らげ株価上昇に火をつけたようである。

これまでに2万3000円を越えてきたが、急騰により過熱感も出ている。チャートのボリンジャーバンド(21日移動平均)は今年1月以来のボリンジャーバンド(21日移動平均)を突破している。25日は9月決算企業の権利付き最終売買日となり、今回は空売りを急いでいる投資家が買戻しを急いでいるようだ。26日に権利落ち分(約150円)を埋めてくるかどうか注目を集めている。ボリンジャーバンドの△2σ(2万3750円)を割って対峙したい。

9月18日(2万3481.53銭)の窓である。この上昇により「三空」を形成している。一番上は

から10%の関税であったことが貿易戦争激化の懸念を和らげ株価上昇に火をつけたようである。

これまでに2万3000円を越えてきたが、急騰により過熱感も出ている。チャートのボリンジャーバンド(21日移動平均)は今年1月以来のボリンジャーバンド(21日移動平均)を突破している。25日は9月決算企業の権利付き最終売買日となり、今回は空売りを急いでいる投資家が買戻しを急いでいるようだ。26日に権利落ち分(約150円)を埋めてくるかどうか注目を集めている。ボリンジャーバンドの△2σ(2万3750円)を割って対峙したい。

今週のスケジュール

- 24日 独9月Ifo景況感指数(17:00)
- 25日 7月30・31日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨
8月企業向けサービス価格指数(8:50)
FOMC(~26日)
米9月CB消費者信頼感指数(23:00)
- 26日 40年国債入札
パウエルFRB議長会見(経済見通し発表)
米8月新築住宅販売件数(23:00)
- 27日 黒田日銀総裁講演(全国証券大会)
米4-6月期GDP確定値(21:30)
米8月中古住宅販売仮契約(23:00)
- 28日 9月18・19日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」
8月労働力調査・有効求人外率(8:30)
8月鉱工業生産、8月商業動態統計(8:50)
2年国債入札

上値の大きな壁に突破したことで、勢い付き一気に年初来高値をうかがう動きになった。海外勢によるショートポジションの積み上がりは以前から指摘されていたが、いわゆる「踏み上げ相場」がいよいよ本格的に始まったようだ。「仕事」という言葉は今や死語になったが、取引形態が多様化した、規模も格段に大きくなった今も相場の本質は変わらないことを実感させられる一週間だった。

一旦動きが出ると一方方向に行き過ぎるのも相場の常。週明けの動きを見守りたい。

編集後記

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。